

氏名	立本文子
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第102号
学位授与年月日	平成20年3月25日
学位論文題目	看護師の手洗い行動の変容に関する研究 - 変化理論を 応用して -

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	106	(ふりがな) 氏 名	たちもと あやこ 立本 文子
修士論文題目	看護師の手洗い行動の変容に関する研究 ―変化理論を応用して―		
<p>目的</p> <p>本研究の目的は、看護師の手洗い行動の変容を促すために、独自にデザインした集団決定による行動変容プログラムに基づいた介入を行い、その集団内に生じる推進力と抑止力について明らかにすることである。</p> <p>方法</p> <p>研究協力の得られた 1 病院の 2 看護単位に所属する看護師 48 名を対象とし、さらに変革推進者 5 名を選出し、変革推進者を中心に研究を行った。まず Lewin の変化理論を参考にした手洗い行動変容プログラムを作成した。変革推進者を対象に、看護師の手洗い行動の実態を把握することを目的にインタビューと手洗い行動の観察、手指細菌検査を行った。続いて、変革推進者の役割自覚を促すとともに行動目標の設定を行うための討論を実施した。さらに変革推進者が病棟スタッフに手洗い行動を促進する活動を行った後、対象病棟を集団決定群と非集団決定群に設定し、集団決定群では集団決定を行った。最後に、介入による手洗い行動の評価として両群の病棟スタッフに対し、手洗い行動の観察を行い、手洗い実施率を比較した。</p> <p>以上の介入から、集団内に生じた手洗い行動の変容における推進力と抑止力を抽出した。</p> <p>結果</p> <p>集団内で生じた変化段階別に働く推進力と抑止力として、溶解から移動の段階では、【変革推進活動】【変革推進者の存在】【社会問題】【十分な動機づけ】の 4 点が推進力として働いており、【手洗いの優先度が低い】【手洗いに関する誤った知識がある】【手洗い場所の不備】【多忙】【不十分な動機づけ】の 5 点が抑止力として働いていた。移動から凍結の段階では、【変革推進活動】【集団決定による目標の設定と明確化】【リーダーシップの発揮】【相互のコミュニケーション】の 4 点が推進力として働いており、【多忙】の 1 点が抑止力として働いていた。</p> <p>考察</p> <p>変化段階別に働く推進力と抑止力が明らかになったことで、変革のプログラムを実施する場合、どの時期に推進力がさらに高まる働きかけを、抑止力が弱まる働きかけをすれば良いのかについて示唆を得ることができた。さらに、変革推進者のあり方や変革推進活動の内容、業務の見直し、集団決定時の集団決定内容やよりよい職場環境の充実を図ることが必要である。</p> <p>総括</p> <p>集団決定をするという行為が、行動変容に大きな意味を持つことおよび、どのような状況においても、変化に対する影響力としての推進力と抑止力が働いていることが明らかにされている。</p> <p>本研究で明らかになった手洗い行動の変容過程で働く推進力と抑止力は、有効な手洗い行動に仕向ける戦略を構築するという視点から、今後の手洗い行動変容の介入を行う際に有効であるといえる。</p> <p>今後はさらに研究対象を広め、推進力を高める働きかけ、抑止力を弱める働きかけを継続的にを行い、介入に対する評価をしていくことが必要である。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。